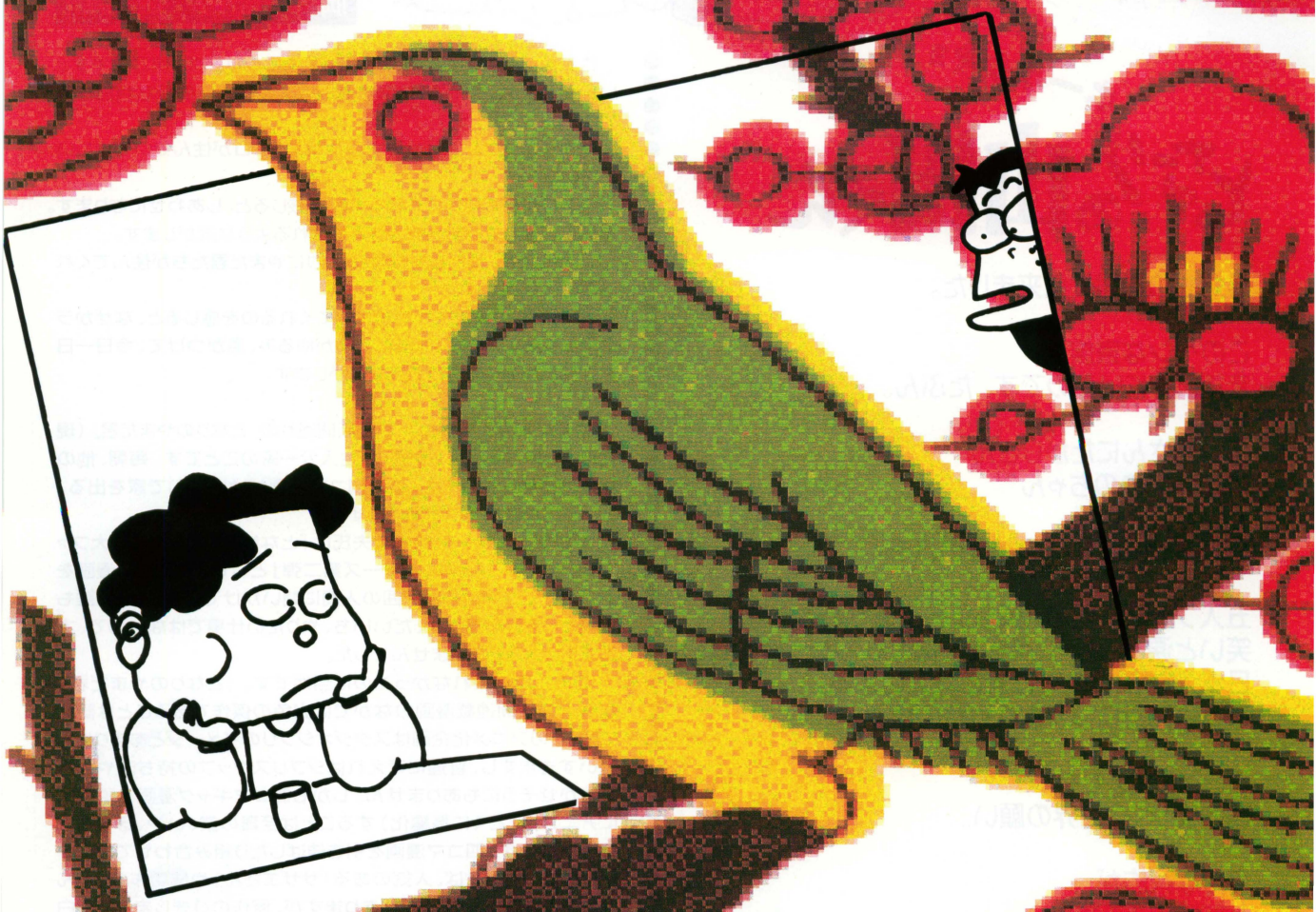


家内安全は、世界の願い。



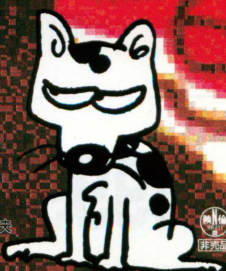
ホーホケキョ

高畑 勲 監督作品

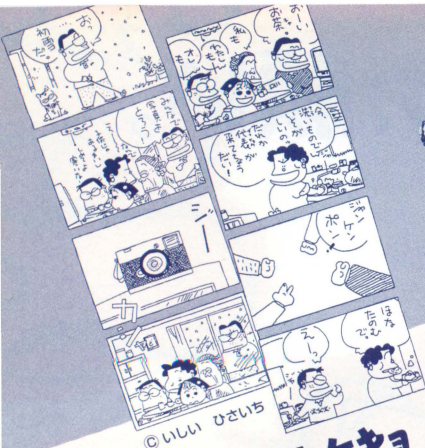
となりの山田くん

MY NEIGHBORS THE YAMADAS

スタジオジブリ作品
STUDIO GHIBLI
製作総指揮/徳間康快 ● 製作 氏家賢一郎 東海林隆
ミカエル・O・ジョンソン ● 原作/いしななこころ (角川書店) ● 音楽/矢野顕子 ● 脚本/高畑 勲 ● 演出/田辺 修
徳間書店・スタジオジブリ・日本テレビ放送網・博報堂・テスニー・提携作品 ©1999 いしななこころ・徳間書店・TGNHB ● 配給 松竹・スタジオジブリ (徳間書店)



DOLBY DIGITAL
DOLBY DIGITAL
DOLBY DIGITAL



ホーホケキョ

となりの山田くん

忘れものを届けに来ました。

このヘンな家族は、
まだ日本にいるのです。たぶん。

まつ子さんにたかしさん
のぼるにののちゃん
そして、しげさん
忘れちゃいけないのが犬のポチ

五人プラス一匹の超ぐうたら家族が織りなす
笑い涙と感動と、え〜と、あとなんだっけの毎日
日本人なら、1億人に身に覚えのある、
あるいは身につまされる話の数々。

ここは日本。でも、
家内安全は、世界の願い。

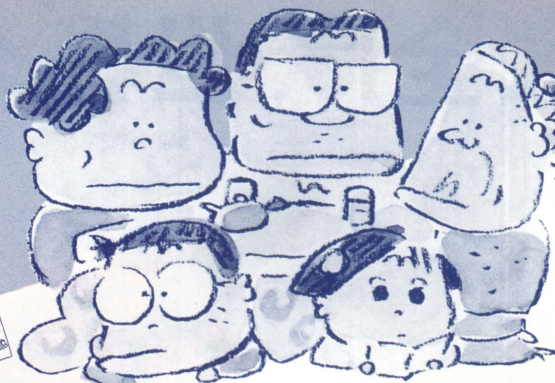
こんな家族が
となりにいて欲しい

スタジオジブリが贈る
となりシリーズ(?)第2弾!

巨匠高畑勲が世界中の家族に贈る
ホーホケキョ となりの山田くん

MY NEIGHBORS THE YAMADAS

……制作は順調に遅れています。



演出・ノートより
「となりシリーズ」
第二弾

脚本・監督 高畑勲

これは、スタジオジブリが送る「となりシリーズ」第二弾です。いいえ、決して冗談ではありません。至極大真面目な特別企画です。

わたしたちは、となりの木々や林にトトロが住んでいてほしいと思います。

トトロが身近にいてくれる気配を感じると、しあわせになります。自然に包まれて、自分がいい人になれるような気がします。

しかしまた、わたしたちは、となりにやまだ君たちが住んでくれるのも大歓迎です。

やまだ家の人たちが身近にいてくれるのを感じると、なぜかラクになります。元気が出ます。頬がゆるみ、息がつけて、今日一日もなんとかやって行けそうな気がします。

やまだ家の人たちとは、朝日新聞連載の『となりのやまだ君』（現在は『ののちゃん』に改題）の主人公一家のことです。毎朝、他の記事は後回しにしても、この四コマ漫画だけは読んで家を出る、という購読者が多いと聞きます。

プロデューサーの鈴木敏夫氏は『となりのやまだ君』の大ファンで、以前から「となりシリーズ第二弾」としてこの四コマ漫画をアニメ化できないかと周囲の人間に問いかけていましたが、誰も冗談としてしか聞かず、だいいち、やりたい仕事ではないので、本気で考えようとはしませんでした。

この企画に乗りなかつたのは当然です。『となりのやまだ君』が最近の新聞連載漫画のなかでは出色の傑作であることは認めても、そのアニメ化企画はスタジオジブリのイメージとあまりにも違いすぎますし、普通に考えればジブリスタッフの持ち味や力量を生かせそうにもありません。しかも四コマギャグ漫画を説得的にアニメ化（とくに長編化）することは至難の業、いや、ほとんど不可能事です。四コマ漫画を引き伸ばしたり組み合わせでアニメ化したものといえば、人気のある『サザエさん』や成功作の『がんばれ!! タブチくん!!』などがありますが、原作のひきしまった面白さは残念ながら犠牲になっています。

それなのになぜ、いまこの時点で、あえて危険を冒してまで、『となりのやまだ君』を「緊急特別企画」として取り上げようとするのでしょうか。成算はあるのでしょうか。

なによりもまず、鈴木氏の「となりシリーズ第二弾」というコンセプトが語呂合わせでも冗談でもなく、時宜に合った妥当なものかもしれないと気づいたからです。この冗談みたいな語呂合わせに含まれる「不真面目のすすめ」こそ、いま必要なかもしれない、と真面目に思いはじめたからです。すなわち、冒頭に書いたように、いまこそ「人々のとなりにやまだ一家を住ませたい」と本気で考えるようになったからです。

1999年夏、松竹・東急洋画系ロードショー!